

中国業務通説

横井

Queen Elizabeth II has died 「エリザベス女王II世死去」

エリザベス女王 (Elizabeth Alexandra Mary) 1926年4月21日～2022年9月8日

左は9月8日、エリザベス女王の死去を報じるBBC (英国公共放送) のWEB版記事。見出しは"Queen Elizabeth II has died" 「エリザベス女王II世死去」。

右は同日、ロンドンのバッキンガム宮殿の正面ゲートに掲げられたエリザベス女王の死去を知らせる掲示。掲示文の内容は下記の通り。



1947年4月21日、21歳のエリザベス王女 (国王・ジョージ6世 1895～1952 の長女)、は訪れていた南アフリカのケープタウンで英連邦諸国に向けたラジオ演説の中の言葉だ。

“I declare before you all that my whole life, whether it be long or short, shall be devoted to your service and the service of our great imperial family to which we all belong.”

私は全ての皆さんの前でこう誓います。私の生涯が長かろうとも短かろうとも、そのすべてをあなた方に捧げるとともに私たち皆が帰属する偉大な大英帝国のために尽くします。

この発言から5年後の1952年に国王の父・ジョージ6世が病で亡くなり、25歳でエリザベス2世として英連邦王国(Commonwealth realm)の女王に就いた。その女王としての生涯は1953年6月2日にウェストミンスター寺院での戴冠式で始まり、2022年9月19日のウェストミンスター寺院での国葬で終わるまで70年に及んだ。

イギリスは17世紀初めから世界各地に植民地を求め、19世紀初めに最大版図となり「太陽の沈まぬ国」・大英帝国となった。しかし、大英帝国は20世紀になり、植民地が独立をめざしたので、1926年の帝国会議でのバルフォア宣言により植民地が独立をしてもイギリス連邦(British Commonwealth of Nations)を構成することになった。現在の構成国は56か国。



エリザベス女王は亡くなる2日前の2022年9月6日にトラス新首相を任命。

他方、イギリス連邦に属し、独立国ながらイギリスの国王(女王)を君主にいただく国で英連邦王国(Commonwealth realm)を構成している。現在の構成国は15か国でカナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど。

1945年に第2次世界大戦が終わり、国際政治の中心はイギリスからアメリカに移っていった。Pax Britannica(大英帝国による平和)からPax Americana(アメリカによる平和)。エリザベス女王はイギリスを世界から尊敬される国、指導的な国となるように努めた。エリザベス女王が訪問したイギリス連邦とその他の国々で、どこでも大歓迎を受けた。洗練された振る舞いと人々の心に響くスピーチを残した。



エリザベス女王の国葬は2022年9月19日午前11時からウエストミンスター寺院で営まれた。王室メンバー全員が参列した。涙する7歳のシャーロット王女。ウイリアム王子とキャサリン妃の長女。女王のひ孫。

イギリス国内では王室に対する批判は止まることはなかった。マスコミはことあるごとに王室を叩いた。いつも国の意見は王室批判と王室擁護に分かれた。王室ファミリーの問題は続いた。1992年アン王女が離婚、1996年チャールズ皇太子とダイアナ妃が離婚、1997年ダイアナ元妃が交通事故死、2020年ヘンリー王子とメーガン妃が王室から離脱。

女王として君臨した70年は大英帝国の没落、衰退の流れに抗えず、晩年には王室ファミリーに不和とスキャンダルが続いた。しかし、王室ファミリーに何があってもエリザベス女王はイギリス国民から愛され続けた。エリザベス女王は21歳の時の言葉通り、96年の人生をイギリスの国民に仕え、国家に尽くした。

英国王室は2022年6月にエリザベス女王と熊のキャラクター・パディントンがバックingham宮殿でお茶をする動画を公開した。女王在位70周年記念動画。下記にアクセスください。

<https://www.youtube.com/watch?v=7UfiCa244XE&t=6s>